



(11月10日を変更して実施)

気温が10月に比べると5度くらい下がり、昆虫の姿がぐっと減りましたがユスリカが群飛しているのに出会いました。アミガサハゴロモの仲間と思われる産卵痕もたくさん見られました。紅葉が進んできて、黄、茶、赤に彩られきれいでした。



アミガサハゴロモ類（東南アジアや中国に分布）の産卵痕

最近はこの産卵痕が頻繁に見られるようになりました。卵を枝に産んだ後の枝の傷を埋めるように白い綿のようなものが覆っています。



ユスリカの仲間

池沿いの道でユスリカが集まって飛んでいました。つかまえると触覚に毛が生えた雄ばかりでした。幼虫は水中で育つので水中の有機物を陸へ運ぶ働きをしています。



常緑のカシのどんぐり

左はシラカシ、右はウバメガシ。シラカシの帽子はしま模様で、花が咲くとその年の内に実り、ウバメガシは鱗状で、実るのに2年かかります。



オオバン 黒い体にピンクがかった白い額とくち

ばしで近くで見ると赤い眼をしています。矢印の先は魚です。2匹で食べていました。普段は水草などを食べていますが、魚を食べることもあります。



カンムリカイツブリ

首が長く白く見える水鳥で、大陸から渡って来て群れで過ごします。近年、琵琶湖や新潟県以北の湖沼で繁殖するものが増えているようです。潜って魚を捕らえます。



マガモ

全長60㎝。雄の頭は鮮やかな緑色で嘴は黄色。大陸から渡って来ますが本州や北海道で一部が繁殖しています。主に水辺の植物を食べます。



ホシハジロ

全長50㎝。おにぎりの様に少し盛り上がった頭は茶色で、水中の藻類を好んで食べます。雄の眼は赤く、雌の眼は焦げ茶色です。



ジョロウグモの卵のう 直径 30 ミリくらい。ソメイヨシノの幹で日の当たらない側に産み付けられていました。特別な糸で作ったふわふわにくるまれています。



エナガ

エナガの群れが前を横切りました。全長 14 ㎝、体重ジ 8 ㌘という小さな鳥で、ジュリリリとかチリリリなどと鳴きます。



ノコンギク

全国に分布する野菊を代表する花で、地下茎のあちこちから芽を出し群落を作ります。



コナラ

上を見上げたら、色づき始めたコナラの葉が見えました。光の中で色づいた葉が黄色く見えきれいです。コナラは赤く色付くこと(左)もあります。



○土壤生物の観察



イシムカデの一種
体長 30 ミリ。肉食性



ジムカデの一種
体長 30 ミリ。肉食性。他のより足が多いムカデです。



カブトムシ幼虫
体長 25 ミリ。落ち葉を食べます。



トビムシの一種
体長 1 ミリ。



イタチグモ

体長 8 ミリ。土壌性で巣を張らない徘徊性のクモです。



ウロコアリの一種

体長 2 ミリくらい。トビムシを食べ、大顎が大きいのが特徴。

植物 ノコンギク、ヒメジョオン、スズカアザミと実、フジバカマ、ホトギス、ツワブキ、アリアケスミレ実飛ぶ、実(アオツズラフジ、ヤマノイモ、キジョラン、ヒヨドリバナ、フジバカマ、コセンダングサ、ススキ、トダシバ、ノガリヤス、メリケンカルカヤ、スゲ類、ノイバラ、テイカカズラ、ツルウメモドキ、ヤマハゼ、ナンキンハゼ、トウネズミモチ、カクレミノ、アラカシ、シラカシ、ウバメガシ、マメガキ、)、冬芽(ソメイヨシノ、ヤマザクラ類、オニグルミ、アオダモ、ヤマハゼ)、 **昆虫・クモ等** アミガサハゴロモ類と産卵痕、クロヒラタアブ、ユスリカ雄の群、ミドリキンバエ、蜘蛛(ジョロウグモ雌と卵のう、ネコハグモ、シロカネイソウロウグモ)、 **鳥、その他** ハシブトガラス、エナガ、メジロ声、オオパン、カワウ、カンムリカイツブリ群、ホシハジロ、マガモ、 **土壌生物** 12種類

次回12月8日(木) 午前9時30分 水資源機構・P前 雨天中止 参加費100円